

テクノロジー・ショーケース2021開催結果報告書

R3.2.26 つくばサイエンス・アカデミー

- 1 開催期日 令和3年2月19日(金) 9時30分～18時15分
- 2 開催形態 オンライン開催
「ズームウェビナー」開会式、インデクシング、特別シンポジウム、
閉会式
「リモカンファレンス」ポスター発表
- 3 参加者数 延466名(ズーム229名、リモ237名)
- 4 内 容
(1)ポスター発表 84件(一般79件、つくば発注目研究5件)
(2)企画展示 2件(つくば市、茨城県)
(3)共催機関広報展示 14機関
(4)弁理士会関東会による「発明無料相談コーナー」の設置
(5)特別シンポジウム
メインテーマ 「地球観測衛星と新型コロナウイルス感染症」

■講演

講師 宇宙航空研究開発機構 第一宇宙技術部門 衛星利用運用センター

研究開発員 濱本 昂 氏

「コロナ影響把握のための衛星データ解析における国際連携」

宇宙航空研究開発機構 第一宇宙技術部門 地球観測研究センター/

GOSAT-2プロジェクトチーム 主任研究開発員 塩見 慶 氏

「GOSATによる温室効果ガス観測にみるコロナの影響」

宇宙航空研究開発機構 第一宇宙技術部門 地球観測研究センター

研究開発員 山地 萌果 氏

「with コロナ時代の地球観測衛星を活用した災害対応」

①「JAXAにおける災害への取り組み」

土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター

主任研究員 大原 美保 氏

「with コロナ時代の地球観測衛星を活用した災害対応」

②「西アフリカ諸国での衛星観測雨量を活用した洪水監視・予測システム」

■パネル討論

「地球観測衛星と新型コロナウイルス感染症」をテーマに、4名の講演者に講演の途中でリモート出演された宇宙航空研究開発機構川北史朗氏が加わってパネル討論を行った。

座長：宇宙航空研究開発機構 理事・筑波宇宙センター所長 寺田 弘慈 氏

(6)プレゼンテーション賞の表彰

発表内容が優れていると認められた発表者を発表し、後日、賞状を送付する。
プレゼンテーション賞一覧については、別紙のとおり。

5 結果

- ・発表件数は昨年より24件少ない84件。分野別に見ると、物質材料(16件)、環境(10件)、農林水産(9件)、地球・宇宙(8件)、ナノテクノロジー(5件)、生命科学(5件)など16分野であった。
- ・ポスター発表については、「異分野の考え方やノウハウに触れられるとても良い機会でした。」「幅広い分野にわたるポスター発表を見て徐々に脳の色々な部分が刺激されました。特に若手の方々がよりよい未来に向けた研究をおこなっている姿に感銘を受けました。」「オンライン開催ですが問題なく興味深く聴講できました。議論も問題なく出来、良かったと思います。」などや、発表者からも「異分野の研究を知ることができ、自分の研究について知ってもらうこともできて充実しておりました。」といった感想が寄せられた。
- ・一方で初めてのオンライン開催で、「ポスターを見回る際、テーブルを一々移動してその都度ホワイトボードを開いてという操作が時間も手間もかかり、不便だった。」「オンラインは切り替え等に時間がかかり、全体を見るには時間がかかってしまいますね。画像がぼやけたポスターもあったのが残念でした。」などの課題も寄せられた。
- ・総体的には、異分野交流による知の触発、研究活動の活性化を図ることができた。